



令和7年は巳年。「復活と再生」「新しいことが始まる」などの意味があると言われています。本区のこどもたちも新しい年を迎え、新たな気持ちで俳句を作ってくれています。

3年生の学級です。新年の「初」がつく季語で俳句作り。共通体験で『「福笑い」で「初笑い」をしよう』ということになりました。

黒板を使って福笑いにチャレンジ。マスクで目隠ししたり、目をつぶったり、黒板でできなかった子たちは、手元の紙に書いたり…と様々な楽しみ方がありました。



たっぷり遊んだ後で俳句を作りました。自分や友達の作った『顔』の様子を詠みました。

『目も鼻も右に寄ったよ福笑い』

『ひょっとこが怒った顔する福笑い』

『ひょっとこが遠くを見てる福笑い』

2年生の学級では、季語ではない「うでずもう」で俳句を作ってみました。季語は「冬うらら」「冬日和」。初めは、隣の子と対戦して楽しみました。次の対戦は条件付きです。「相手の様子を見て」「相手の顔は?」「自分はどこに力を入れた?」との働きかけで俳句を作りました。

『冬うらら負けたくないようでずもう』

『冬うららひじが浮いてたうでずもう』

『冬日和手の平いたうでずもう』

『冬日和手が重くなったうでずもう』

俳句は想像でも作れますが、体験したことを題材にすると、その子らしさが表れることが多々あります。これからも素朴な言葉で自分の気持ちを表現してってほしいと思いました。

